



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：改革派による抗議デモの継続

イランの改革派指導者、ムーサヴィー元首相とキャッルービー元国会議長による、エジプトやチュニジアなど中東の民衆デモを支持する集会を開催しようとの呼びかけに応じ、2月14日、反政府スローガンを叫ぶ数千人規模のデモが発生、警官隊と衝突した。2名の大学生が死亡し、多数が負傷、拘束されている。

改革派はFace Bookを通じ、14日のデモで死亡した2名の追悼のため、20日にデモを実施しようと呼びかけた。イラン当局はFace Bookへの接続を遮断しているが、迂回ソフトを用いて多くの人々が閲覧し、学生らが「独裁者に反対しよう」「我々の団結を示そう」などと書き込んでいる。

20日には、中心部のエンゲラーブ広場などテヘラン市内数カ所でデモが発生、治安当局の発砲で1人が死亡した。数千人が中心部の目抜き通りに集結し、政府への抗議の意味を込め「神は偉大なり」などのスローガンを叫んだという。ラフサンジャーニー元大統領の娘で改革派活動家のファーイェゼ・ハーシェミーもデモに参加し、挑発的行動を取ったとして一時拘束された。

デモはテヘラン以外にも、中部エスファハーン、南部シーラーズ、北西部サナンダジュ、北部ラシュトなど全国に拡大した。政府は治安部隊を市内に配置して厳戒態勢を敷き、催涙弾などを用いてデモ隊を強制排除、逮捕者も多数出ている。さらにイラン当局は、14日以降治安部隊にムーサヴィー元首相やキャッルービー元国会議長の自宅を封鎖させ、自宅軟禁状態に置き、デモへの参加を阻止、電話も遮断するなど外部との連絡を遮断した。また、ネットの通信速度を極端に落として接続を困難にするなど、情報統制も行っている。

中東調査会『かわら版』No.27(2011年2月17日)「イラン：エジプト政変に対する政府反応と改革派による反政府デモ」をご参照願います。

(研究員 山崎 和美)